

学校教育目標	ふるさとを愛し 夢に向かって主体的に学び 行動できる児童の育成
育成を目指す資質・能力	言語能力を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○各教科とも問題文を読み取る力、自分の考えを表現する力が弱く、読む、書く、話すなど言語能力の育成が課題である。特に書く力については重点的に育成していく必要がある。 ○資料や実験結果から考察するなど得た知識を活用する力に課題がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して40%が「あまりしていない」と答えている。家庭学習の目的をそれぞれの児童に意識させることに課題がある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○児童評価より、「学校の授業はよくわかる」95%「学校の勉強は楽しい」94%「授業で進んで自分の考えを発表している」70%となっている。また、単元末テストの平均正答率も8割以上79.9%、6割未満2.4%とおおむね目標を達成している。しかし、学力調査の結果からも、得た知識を活用する力、根拠を明らかにしながら、自分の考えを書いたり、話したりするといった表現する力については、どの教科においても課題である。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員評価において「授業や単元のゴールの明確化、課題の工夫、板書の構造化」で20%「授業で子どもの考えを話す場の設定」で50%が取組が不十分だと感じている。児童の評価は、「授業がよくわかる」95%、「学校の勉強は楽しい」94%「授業で進んで自分の考えを発表する」70%だった。特に、発表については、児童が主体的に学習に取り組めるような、児童各々のスキルアップ、場の設定や発問の工夫など必要だと考える。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○スキルタイムの内容については、各教科の基礎基本の定着や言語能力の育成などだけでなく、コグトレなども取り入れ、学習の土台づくりにも取り組んだ。しかし、授業→家庭学習→スキルタイムのサイクルの確立と内容と実施日についての全学年の共通理解に課題がある。 ○「家では毎日決められた時間に勉強している。」児童88%、保護者80%であった。いずれにしても2割弱の児童については、家庭学習の習慣化ができていない。家庭への啓発や学習内容の工夫や目的をしっかりと意識させることが重要である。	

学力に関する達成指標

- 単元末テストの平均正答率8割以上の児童80%以上 6割未満の児童5%未満
- 「授業が楽しい」「授業がよくわかる」と答える児童90%以上
- 授業で進んで自分の考えを発表している児童80%以上
- 家庭学習の習慣ができていると答える保護者が85%以上

